文學博士
金澤庄三郎編

小辭林

三省堂

16
11

小辞林

文学博士
金澤庄三郎編

三省堂

——小辞林——

定価金300円

昭和二十一年九月十二日　一版発行
昭和三十一年三月五日　一七五版印刷
昭和三十一年三月十日　一七五版発行

編者　金澤庄三郎
東京都千代田区神田神保町一ノ一
発行者　三省堂出版株式会社
代表者　喜多見[illegible]
東京都中野区千代田町六八
印刷者　地図印刷株式会社
東京都千代田区神田神保町一ノ一
発行所　三省堂出版株式会社
電話　東京(33)一一二六—九
振替口座　東京一一〇一五九

ミタカ製本　（小辞林）

（商標登録番号　第379852号）

曩に広辞林を編纂するに当り、其内容の充実に努めしことは勿論ながら、同時に其外形の尨犬に失する弊を避け、日常の使用に対し恰好の大いさを保たしめんがためにも、甚深なる注意を払ひたり。広辞林の愛用者は其各頁に於ける植字法の如何に忽せならずして、不経済的なる余白の極度に減少せられたることに注目せられなば、必ずや編者の苦心に対して同情を惜しみたまはざるべし。爾来編者は更らに広辞林に適度の取捨を加へ、携帯用としての小形辞林を発行せんがため、専心努力中なりしが、今や其業漸く就り、茲に小辞林の名を以て、これを公にするに至れり。

小辞林はこれを広辞林に比し、頁数に於て漸く其半を稍超過したる程度のものなりと雖も、削除せられたる語は多く古典に属するものにして、新時代の用語並に外来語に於ては反つて著しくこれを増補したり。故に机上の広辞林と袖珍の小辞林とは画々礼俟つて其使命を果すべき関係にありといはざるべからず、敢て自からこれを江湖に薦むる所以なり。

昭和四年九月

東京本郷曙町にて

金沢庄三郎

凡例

一、語詞の排列は凡て五十音順に拠る。但ゥ　一符を以て表はせる長音は各其物音の後に置き、促音はッ一部に、撥音はンは最終即ちワ行音の後に加へたり

一、本書の語彙中に出づる国語は凡て歴史的仮名遣に拠り、其直下に片仮名を以て旁音的の細注を施せり、漢字音はこれに反し、一切旁音的仮名遣を用ひ、其下に〃を冠して歴史的仮名遣を注記せり　英・仏・独・露等の欧洲語は片仮名を用ひ、これを標記す、

一、国語中特に仮名遣の誤り易きものは、其旁音仮字を掲げて語彙の列中に加へたれば、故らに検索するの労なかるべし

一、本書中使用せる旁音的仮名遣は、大体に於て文部省仮名遣改定案に従ふ

一、本書に於ては動詞の自他多分ついみにして、用言を通じて一助の活用形を標記す、故に同形詞の重出せるは、其活用形の同じからざる結果なりと知るべし

一、本書の編輯に関しても亦足助直次郎氏の終始一貫せる助力を得たり　特に記して謝意を表す

略表

（名）名詞	（形）形容詞		
（代）代名詞	（助動）助動詞	（接頭）接頭語	
（数）数詞	（副）副詞	（接尾）接尾語	
（他）他動詞	（感）感動詞	（枕）枕詞	

語表

【哲】哲学	【法】法律学	【理】物理学	
【仏】仏教	【経】経済学	【化】化学	
【心】心理学	【動】動物学	【数】数学	
【論】論理学	【植】植物学	【天】天文学	
【教】教育学	【鉱】鉱物学	【地】地質及地文	

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

小辭林 新版

あ

あ [足](名) あし。
あ [網](名) あみ。
あ [唖](名) ■つぼ。■ばかもの。[ど]。
あ [啊](名) おし。おれ。
あ [阿](名) ■さ。[接尾]。■くこ。
あ [彼](代) かれ。
ああ [如斯](副) あのやうに。
ああ [嗚呼・于嗟](感) 感歎の語。
あい [愛](名) ■やうし。■すき。■こひ。
あい [鮎](名) ■あゆ。■やなし。■ぬ。
あい [間](名) [あひ]。
あい [逢](名) [あひ]。[あひ]を見よ。
あい [哀](感) 悲歎の聲。
あい—あい [相](接頭) 「あひ」を見よ。
あい—あい [哀哀](名・副) ふかしきさま。
あい—あい [藹藹](名・副) もげるすま。
あい—あい [愛乃](名) よなうた。[編歌]。「よ。
あい—いく [愛育](名) 大切にして育つること。
あい—いん [愛飲](名) 好みて飲むこと。
あい—えん [愛縁](名) 情愛の因縁。
あい—か [哀歌](名) かなしみの歌。
あい—がん [愛願](名) 願しもてあるおもと。
あい—がん [愛玩](名) 愛しもてあそぶこと。
あい—きょう—ぶん [愛嬌心](名) 所謂「すき」(愛嬌)。
あい—きょう [愛敬](名) かはゆげ。ひとをゆかしむ情。
あい—きょく [愛曲](名) 他人の詩の歌詞。
あい—けい [愛敬](名) 愛情深く敬慕すること。
あい—こ [愛子](名) かはいきひとて。
あい—こ [愛護](名) ものしみまもること。
あい—こく [愛国](名) 自国を愛すること。「き。
あい—こ—ぢゆき [愛己主義](名)(哲) りこちゆ
あい—さつ [挨拶](名) ■やしあひ。[しあひ]。■紹介。■ふる。■あつかひ。
あい—ぢ [愛子](名) かはゆがる子。「と。
あい—ぢゃく [愛著](名) 愛にひかされ。
あい—ぢゅう [愛執](名) 愛情の執着。
あい—ぢゅつ [哀述](名) あはれみかなしむこと。
あい—ぢょう [哀情](名) 悲しむ情。
あい—ぢょう [愛情](名) 愛するもかけ。
あい—ぢょう [愛嬌](名) いつくしむ。
アイス [Ice](名) ■こほり。■氷菓。——
クリーム [Ice cream](名) 牛乳に砂糖を加へ(氷の真身をまぜて冷却せしめたる菓子。
あい—す [愛](他) ■かはゆがる。■にひむ。■をしむ。■あたふ。
あい—せき [愛惜](名) をしむこと。
あい—せき [哀感](名) かなしみ。
あい—ぜん [愛然](名)(佛) 相愛の無まるまま。
あい—ぜん [愛染](名)(佛) 佛法護持の明王。
あい—そ [哀愁](名) かなしみ。つらさ。
あい—そ [哀訴](名) わけをわかる哀願。
あい—そう [愛想](名) ■ものしし。■もてなし。■たしなみ。■愛嬌をとゐと。■もてなし。■たしなみ。
あい—そう [愛憎](名) 愛するとにくむこと。
あい—そん [愛孫](名) かはゆがる孫。
あい—た [間](名) [あひだ]を見よ。「がれ。
あい—たい [愛慕](名) ■たなびくさま。■めあたる。
あい—た—ぢ—ぎ [愛他主義](名)(哲) りたぢゆき。
あい—た—る [愛孟](自) あまゆ。
あい—つ [彼奴](代) あやつ。
あい—つら [哀痛](名) かなしみいたむこと。
アイデア [Idea](名) ■理想。■(哲) 眞本。——リズム [Idealism](名) ■理想主義。■(哲) 眞本論。眞心論。
アイデアル・カラー [Ideal color](名) 「オーバーコート」又は「レーンコート」にて、陸軍式のもの。
あい—とう [哀悼](名) 死者をいたむこと。
あい—どう [哀慟](名) かなしみなげくこと。
あい—どく [愛読](名) 好みて讀むこと。
あい—にく [生憎](副) あやにく。
アイヌ (名) 北海道・千島・樺太等に住す。北海道土人の祖、古昔、蝦夷と呼ばれしものにて、現在北海道・千島・樺太等に住す。
あい—ねん [愛念](名) 愛するおもひ。
あい—は [愛馬](名) 大切にして飼ふ馬。
あい—ぶ [愛撫](名) 愛しやすんずること。
あい—べつ—りく [愛別離苦](名)(佛) 愛する人と生別するくるしみ。
あい—ぼ [愛慕](名) いつくしみあたふこと。
アイボリー [Ivory](名) 「象の白牙」。
あい—まい [曖昧](名) ■明白ならざること。■うしろめたさ。ぼやけ。
あい—みん [哀憫](名) あはれみ。「の丘」。
あい—ゆう [雄勇](名) 生業に関ふる勇士民
あい—よく [愛欲](名) 愛著と欲望。
あい—らく [愛楽](名) このみ楽しむこと。
あい—れん [愛憐](名) たなけ。いつくしみ。
あい—れん [哀憐](名) あはれみ。
あい—れん [愛憐](名) とりあたふこと。
あいろ [支色](名) すぢ。けぢめ。あやめ。
あい—ろ [隘路](名) せまき道路なるみち。
アイロニー [Irony](名) 反語。
アイロン [Iron](名) 西洋形の火のし。
アウエル—とう [—燈](名) はくねつ瓦斯燈。
アウト [Out](名) ■セと(外)。■テニス又は「ベースボール」などにおける一種の失敗。

―カーブ[Outcurve](名)野球にて、投球の一種、本塁近くにて急に左方に曲がる投球。―サイド[Outside](名)外部。外側。―ドロップ[Outdrop](名)野球にて、投球の一種、本塁近くにて急に左方にそらしながら落下せしむる投球。―フィールド[Outfield](名)野球にて、外野。―ライン[Outline](名)●輪郭。●線路。―ルック[Outlook](名)展望。見通し。

アウロラ[Aurora](名)極光。

あうろん[阿叶・阿呂](名)●[仏]吽と阿との合音。(名)諸法の初終。(は)王。●紫色の[只入]。

あえ(一)[物](名)「あへもの」を見よ。

あえて[敢](副)「あへて」を見よ。

あえもの[和物](名)ふやかりもの。

あえもの[和物](名)「あへもの」を見よ。

あえもの[雑物](名)「あへもの」を見よ。

あえん[亜鉛](名)[鑛]青白色の硬き金属。―かい[亜鉛華](名)[化]酸化亜鉛の称。―ばん[亜鉛版](名)一種の印刷版。[版]

あえ[言](名)「あを」を見よ。

あえ[襖](名)「あを」を見よ。

あえい[葵](名)「あふひ」を見よ。

あえぐ[喘](自)「あふぐ」を見よ。

あえぐ[喘](他)「あふぐ」を見よ。

あえのく[仰](自)「あをのく」を見よ。

あえむく[仰](自)「あをむく」を見よ。

あおり[煽](名)[自・他]「あふり」を見よ。

あか[赤](名)血の色に似たる色。

あか[垢](名)[俗]のかがれ。

あか[垢](名)●肌に附着したる汚物。●物につく波動のかす。●わたかまり。疑惑。

あか[淦](名)船中にたまりたる水。一説。

あか[閼伽](名)[仏]供物又は燈明に供ふる浄水。

あか―(一)[赤](接頭)あらは。又、全く。

あかい[亜槐](名)大納言の雅名。

あかいあんにょ[赤信女](名)[仏]法華の一句。

あかいいも[赤芋・紫芋](名)[植]馬鈴薯の一種、皮肉の紫赤色なるもの。

あかいわし[赤鰯](名)●[動]鰯の類。●赤味を帯びたる鰯。

あかう[赤魚](名)[動]鯛赤く口大いなる深海魚。「深海にすむ深海魚。

あかうそ[密](名)[植]柏より氣根を出して密生する常緑樹。

あかうそ[赤蝦](名)わかりきったること。

あかえひ[赤鱆](名)[動]えびの一種、背部淡黄色にして腹部白色なり。

あかえり[赤襟](名)●赤地の襟。●十七八歳の少女。●女童。

あかがき[赤柿](名)ほしが。

あかがし[赤樫・血樫](名)[植]材質の堅硬赤色なる常緑樹。[合羽。

あかがっぱ[赤合羽](名)紅がら色の桐油

あかかれ[鯛](名)[鯛]淡赤色の光輝を帯びたる鯛。「かっぱ。

あかがひ[赤貝・魁蛤](名)[動]殼は心臓状扁円、肉の赤色美味なる海産の貝。

あかきこころ[赤心](名)いつはりなき心。

あかきれ[輝](名)洗きめたる手足の皮膚の「もがく。

あかく[足搦](自)●馬足にて地をかく。●

あかげット[赤毛布](名)●赤きの毛布。

あかご[赤子](名)生まれたての小兒。

あかころのろ[赤行燈](名)黄氣なる鳥使物を納める行嚢。

あかさ[紫草](名)[植]紫草花を開き、茎の根に用ひらるる一年生草本。

あかさび[赤錆](名)赤色なる錆。

あかし[証](名)●あかすこと。證明すること。●[仏]証明。―ぶみ[証文](名)[仏]証明に新聖する文。

あかし[燈](名)ともしび。あかり。

あかし[赤](形)●あか色なり。丹、紅。●あきらかなり。●うしろめたし。

あかし[明石](名)あかしちぢみ。―だま[明石珠](名)[鑛]珠に模倣したる人工物。―ちぢみ[明石縮](名)ちぢみの絹織物。

アカシア[Acacia](名)[植]オーストラリアの原産、「アラビアゴム」を採取する灌木。

あかあで[赤垂・赤垂](名)[植]極が花序の軸に垂れ下がる常緑喬木。

あかあほ[赤潮](名)赤褐色をなす海水。

あかあむ[垢染](自)[俗]垢つきよごれる。「垢染む。

あかす[明](他)●あきらかにす。●世を過ごす。

あかすき[赤鈔](名)古銅を切りたる品。

あがた[縣](名)●諸侯にある領地の領地。●国守の任国。●なか。地方。―ぬし[縣主](名)あがたを支配せし頭。―めし[縣召](名)国司の官人を任命せられし公事。

あかつき[暁](名)よあけ。あけがた。

あかつく[垢附](自)あかにまれる。

あかつく[垢附](他)あかをつく。

あかつち[赤土](名)はに。粘土。

あかつら[赤面](名)●あかき顔。●恥辱。

あかてつ[赤鉄](名)[植]蘭科に属し、材質の堅硬赤色なる常緑樹。

アカデミー[Academy](名)西洋諸国の高等教育機関又は学士院。―がくは[―学派](名)[プラトン]の学説を継続する学派。

アカデミック[Academic](名)●学問的。厚究的。●学問にて、正理的。

あかなす[赤茄・番茄](名)[植]トマト。

あがなひ[贖](名)あがなふこと。

あがなふ[贖](他)●金品を出して罪過をまぬかる。●うめなす。●うけ出す。

あがなふ[購](他)●金品を出して買ふ。●酒をかけて賭ること。

あかに【赤土・紅土】(名) 赤色の土。

あかにしき【赤錦・紅錦】(名) 赤色の錦。

あかにしきのうけん【赤錦直垂】(名) 朱子にて印刷せる紅色の錦の直垂。

あかぬけ【垢抜け】(名) 垢とれてきれいになること。

あかね【茜・茜草】(名) 蔓草。根は赤色を呈し、根の茎材又は細粉となる。

——いろ【茜色】(名) 茜草の根にて染めたる暗赤色。——さす【茜刺】(枕) 「日」・「君」・「紫」・「たき人」等に掛る。

あかのたにん【赤の他人】(名) 全く縁かり。

あかはた【赤旗】(名) 赤き旗。

あかはだ【赤肌】(名) 赤むけの肌。

あかはぜ【赤樺】(名) 蒲の花。

あかはぢ【赤恥】(名) 赤はじかき。

あかばな【柳葉菜】(名) 山野の水湿に生じ、茎の往往紫赤色を呈する多年生草本。

あかばな【赤鼻】(名) 赤い鼻。

あかばね【赤自】(名) 赤くなる。

あかばむ【赤・他】 赤くなる。

あかはら【赤腹】(名) 鯉(い)・鮒に似たる魚。はらぐろ。はらぐろ。

あかひげ【赤髭】(名) 赤き髭。

あかぼうず【赤坊】(名) 赤ん坊。

あかぼろ【赤襤】(名) 代官の陣羽織にて、手柄顔を持ち歩く人夫。

あかぼし【明星】(名) 【天】金星。——の【明星之】(枕) 「あくる」に掛る詞。

あかほ・ほほ【赤穂穂】(名) 【植】赤穂赤穂草。

あかほん【赤本】(名) 草紙。

あかまいし【赤間石】(名) 【鑑】あずき色なる石。

あかまつ【赤松】(名) 【植】松の一種。外皮赤く葉の細短なるもの。

あかみ【赤身】(名) 赤き肉。

あかみ【赤味】(名) 赤きこと。

あかみそ【赤味噌】(名) 赤味の味噌。

あかむ【赤・自】 赤くなる。

あかむ【赤・他】 赤くする。

あかむけ【赤剝】(名) 皮膚むけて赤きこと。

あかめかしは【赤芽柏・柏】(名) 【植】柏の種類にて赤き芽を出す。

あかもがき【赤斑搔】(名) はしか。

あかもんは【赤門派】(名) 東京帝国大学出身者。

あからがほ【赤顔】(名) 赤みを帯びたる顔。

あからけし【赤・形】 赤くあり。

あからさま【歴然】(名) 明白。

あからさま【白地】(名) あからさま。

あからむ【赤・自】 赤くなる。

あからむ【赤・他】 赤くする。

あからめ【明・他】 あきらむ。

あかるむ【赤・自】 赤くなる。

あかわらむ【赤・他】 赤くする。

あかわめ【外見】(名) 見かけ。

あかり【明】(名) 明かり。

——ぶくろ【明袋】(名) 明袋。

あがり【上】(名) 上がること。

——ばな【上花】(名) 新茶の出始めの茶。

——ばか【上高】(名) 収入の高。

——ばな【上花】(名) 新茶の出始めの茶。

——もの【上物】(名) 貴人の食物。

——あがり【上】(接尾) 特殊の生活を経し。

あがりざかき【揚座敷】(名) 徳川時代に、御目見以上の婦人を監視せし部屋。

あがりや【揚屋】(名) 遊廓に次ぐ遊廓。

あかる【明・自】 明るくなる。

——し【明・形】 明るし。

——み【明】(名) 明るき点。

あかる【開・自】 ひらく。

あかる【赤・自】 赤くなる。

あがる【上・自】 のぼる。

あがる【揚・自】 揚げる。

あがる【上・他】 上げる。

アカンサス(acanthus)(名) 建築上の装飾。

あかんぼろ【赤坊】(名) 赤坊。

あき【秋】(名) 秋のつきるまで。

あき【飽】(名) 飽きること。

あき【明】(名) 明きること。

あき【厭】(名) 厭きること。

あき【阿蘇】(名) 【植】中央アジアの蘇。

あきいへ【明家】(名) 人の住まぬ家。

あきうど【商人】(名) 商人。

あきかぜ【秋風】(名) 秋の風。

あきがはり【商替】(名) 商売の変更。

あきがら【明殼】(名) 空殼。

あきぎり【秋桐】(名) 桐の一種。

あきくさ【秋草】(名) 秋に花咲く草。

あきと【秋蘇】(名) 【植】秋に開花する蘇。

あきさす【鰹】(名) 鰹。

あきさめ【秋雨】(名) 秋の雨。

あきまく【秋蒔】(名) 【植】秋蒔き。

あきまろ【明白】(名) 明白。

あきまろ【明城】(名) 明城。

あきずねらひ【明暮狙】(名) 暮れなる人を待ちうけて、物をねらう盗賊。

あきぜみ【秋蟬・鳴蟬】(名) 【動】秋蟬。

あきた【秋田】(名) 秋田。

[秋田縮]〔名〕秋田地方産の絹織物。——！

あきんけい[秋田春蘭]〔名〕[植物]名古屋産。

あきちょうあ[秋千]〔名〕[遊戯]ぶらんこ。

あきつ[秋津]〔名〕[国]とんぼ。——しまと[秋津島]〔名〕我日本国の称。

あきつ-おみ[明津神・現御神]〔名〕上上の[神]〔名〕●あきつ。あひ。●明つ神の略。

あきと[秋]〔名〕●あきと。●鳥が水に浮かびて休憩す。

あきなひ[商]〔名〕●商品の買ひ入れ。

あきなふ[商]〔他〕●商品を買ひ入れる。

あきにれ[秋楡]〔名〕[植]山に生じ、秋黄色の小花を開き翼状を結ぶ落葉木。

あきの-あふぎ[秋扇]〔名〕[秋風]に捨てられし婦人の如せられし婦人にあかれすてられること。

あきの-かた[明方]〔名〕[神]明神のある方。

あきの-とこ[秋風]〔名〕秋かぜの音。

あきの-たむらそう[風尾草]〔名〕[植]紫色の穂形花を開く多年生草本。

あきの-のげし[田苦菫]〔名〕[植]黄色の頭状花を開く、年生草本。

あきの-みや[秋宮]〔名〕[神]后宮。

あきはと[明鳥]〔名〕[鳥]かりのはと。

あきはれ[秋晴]〔名〕晴れわたりたる秋の日。

あきびと[商人]〔名〕あきうど。

あきめくら[明盲]〔名〕●見やる目き外観。●文字をあらわれものの文盲。

あきや[明家]〔名〕人の住まれぬ家。[空屋]。

あきやう[阿蘇]〔名〕みやうあきやう。

あきよう[阿聯]〔名〕[植][植]の一種の[阿聯版]〔名〕[植]アイリイ。

あきらか[明]〔名〕はっきりとしたること。

あきらけし[明]〔形〕あきらかなり。

あきらむ[諦・諦]〔他〕つまびらかにきはむ。

あきらめ[諦]〔名〕[植]ひとさとること。

アキリス・けん[アキリス腱]〔名〕[解]足上にて[解]に結合する最強腱[解]の[解]の腱。

あきる[呆・惚]〔自〕[植]ひの外なるに驚く。

あきんど[商人]〔名〕[植]秋の[植]。

あく[灰汁]〔名〕[植]灰を水に浸したるうはずみ。

あく[悪]〔名〕[植]あげぐ。ひきまく。まくばり。

あく[悪]〔名〕[植]よかりぬと。わるきこと。

あく[明]〔自〕●[植]いまだたる。●[植]少になる。●自然にひらく。●[植]蕾が始まる。

あく[明]〔他〕●あきらかになる。●[植]年期[植]。●[植]になる。

あく[明]〔他〕●ひきになる。●からになる。●[植]く、●[植]つ。●[植]を[植]を[植]。

あく[飽]〔自〕十分に足る。[植]足り。

あく[厭]〔自〕いやになる。

あと[上]〔他〕●のばす。●あらはす。●ひまあと。●[植]とぞ。●[植]とぞ。●[植]く。●[植]。[植]枝を[植]く。[植]。

あくあく[悪悪]〔形〕[植]悪ひさぎ[植]く[植]。

あくい[悪意]〔名〕わるきこと。[植]なる[植]。

あくいあくあく[悪衣悪食]〔名〕[植]衣食。

あくいんあっか[悪因悪果]〔名〕[植]悪しき因果のあしき結果を来たすこと。

あくうん[悪運]〔名〕[植]悪運の[植]の運。

あくえき[悪疫]〔名〕[植]あしきはやりやまい。

あくえん[悪縁]〔名〕[植]あしき因縁。

あくかた[悪形]〔名〕[植]人に対する[植]。

あくき[悪鬼]〔名〕[植]わるき。

あくきゅう[悪球]〔名〕[植]悪球の[植]。

あくぎょう[悪行]〔名〕[植]悪しき所行。

あくげん[悪言]〔名〕[植]わるくち。

あくごう[悪業]〔名〕[植]過去の悪行。

あくさい[悪妻]〔名〕[植]ためにならぬつま。

あくさく[偏侯・偏侯]〔名〕[植]あくせく。

あくさき[悪事]〔名〕[植]悪行。[植]わるはひ。

あくさき[悪食]〔名〕[植]いかものぐひ。

あくあつ[悪質]〔名〕[植]悪しき性質。

あくあつ[悪疾]〔名〕[植]悪しき病気。[植]。

あくあや[悪金]〔名〕[植]を[植]り[植]たる[植]。

あくあや[悪魔]〔名〕[植]あくまつ。

あくあや[悪手]〔名〕[植]悪手。[植]。

あくあやう[悪臭]〔名〕[植]あしきにほひ。

あくあう[悪習]〔名〕[植]あしき[植]。

あくあ[悪所]〔名〕[植]悪所。[植]いたる。

あくあ[悪女]〔名〕[植]婦人。[植]婦人。

あくあ[悪性]〔名〕[植]悪しき性質。[植]悪しき性質。

アクション[action]〔名〕[植]作。作用。

あくあ[悪心]〔名〕[植]ねたむこころ。[植]からこころ。

あくあ[悪神]〔名〕[植]を[植]。[植]こころ。

あくすい[悪水]〔名〕[植]飲めぬ水。[植]よ[植]。——ろ[悪水路]〔名〕[植]げすのだつ。

あくせく[偏侯・偏侯]〔名〕小[植]になづみて[植]せかせかするさま。あくさく。

あくせん[悪銭]〔名〕[植]悪にて[植]たる金銭。

アクセント[accent]〔名〕[植]の[植]子。

あくそう[悪相]〔名〕[植]悪なる[植]相。

あくそう[悪僧]〔名〕[植]行の[植]僧。

あくた[芥]〔名〕[植]ごみ。[植]たる[植]物。ごみ。

アクター[actor]〔名〕[植]俳優。

あくたい[悪疫]〔名〕[植]のしるし。[植]は。

あくち[悪血]〔名〕[植]病[植]を[植]する血。

あくとう[悪盗]〔名〕[植]人[植]に[植]する[植]。

アーク・とう[アーク灯]〔名〕[植]電灯。

あくどう[悪道]〔名〕[植]あしまみち。[植]

あくねん[悪念]〔名〕[植]ねたけたるみもひ。

あくば[悪馬](名)くちがたなく馬あると。
あくび[欠](名)口から出る息の出ずること。
あくひつ[悪筆](名)拙き筆跡。「まれ。
あくびょう[悪病](名)たちの悪しきそ
あくぶ[欠](自)あくびをする。
あくふう[悪風](名)よからぬならはし。
あくへい[悪弊](名)あしきならはし。
あくへき[悪癖](名)ほしきくせ。
あくぼく[悪木](名)可なりにかるるもの。
あくま[悪魔](名)人を惑わしくるしむる魔。
——は[悪魔祓](名)くしたのは馬をとり祓れ
ますひとをやもいに。
あくまで[飽迄](副)はてしはてまで。
あくみ[足組](名)ちくら。
あくみょう[悪名](名)よからぬ風評。
あくむ[悪夢](名)よからぬ夢。
あくむ[見組](名)ちくらをとく。
あくむ[厭](自)●あく。●もてあます。
あくや[駄足](名)あくせく。
あくやく[悪役](名)あくにん。あくさや。
あくら[料理](名)●ものみけどころ。●
見をくみてすりたる。
アークライト[arc light](名)[電]電気。
アークランプ[arc lamp](名)[電]電気。
あくりょう[悪霊](名)悪霊をなす
あくりょく[腕力](名)力を記しるかに[武]。
あくる[明日](名)つぎの日の日。
あくるとし[明年](名)つぎの年。翌年。
あくるひ[明日](名)つぎの日。よくじつ。
あけ[朱鞘](名)あかさや。あかさいん。
あけ[明](名)●あくるる。●よあけ。
あげ[上](名)●あげる。●[料理]に[ひた]
あげ[揚](名)あがりあげ。
あげあし[揚足](名)●山にあげたる足。●
いいかげんなやりかた。
あげあぶら[揚油](名)あげもの用のあぶ
ら。「用の煙。
あげい[両足](名)[武]両足。
あげいた[上板][揚板](名)[料理]ちゃぶ
あけおろし[上上](名)あけるとまもなく。
あけかた[明方](名)よあけがた。
あけがらす[明烏](名)よあけに鳴くから
す。「はりまぶ
あげく[挙句](名)●[歌]の最後の句。●を
あけくらす[明暮](他)年月をおくる。
あけくる[明暮](自)月日たつ。
あけくれ[明暮](名)[編]●朝晩。●つね
あげこし[上越](名)[碁]に[提]て[勝]
あげ[上](名)[碁]にて提て勝
あけ[上](名)[碁]にて提て勝
あげ[上](名)[碁]にて提て勝
あげ[上](名)[碁]にて提て勝
**あげ

あざ【痣】(名) 皮膚に異常の色のあらはれたるもの。
あざ【字】(名) あざな。
あさ-あけ【朝開】(名) あさぼらけ。あけがた。
あさ-あさ【朝朝】(名、副) まいあさ。
あさ-い【朝寝】(名) あさね。「したる寝。
あさ-いと【麻糸】(名) 麻の繊維の糸にて即
あさ-うら【麻苴】(名) 草履の一種。「ちも。
あさ-うり【浅瓜】(名) 【植】いまうり。(ろ)
あさ-おき【朝起】(名) あさ早くおくること。
あさ-おけ【朝駆】(名) 朝早く馬を駆かふこと。
あさ-おすみ【朝凝】(名) 朝にたつすみ。
あさ-かぜ【朝風】(名) あさ吹くかぜ。
あさ-がほ【朝顔】(名) 朝のかほ。「の。
■【植】(い) 蔓草の夏花を開く一年生草本。(蓮牛花)。(ろ) 持病。(は) ひしげ。■【植】かげろ
よ。陽上方開き下方閉じみたる形。——**がひ**
り【朝顔貝】(名) 【動】介殻相接中に似て異
国なる海産の貝。——**ぞめ**【朝顔染】(名)
朝顔は紫の大形なる牽牛花。
あさ-がみ【朝髪】(名) 朝起きたるままの髪
のすがた。——**の**【朝髪之】(枕) 「おもひ乱
れて」に対する語。
あさ-がみ-ぬも【麻上下】(名) 麻布にて仕
立てたる上下。「の笠。
あさ-がら【麻殻・麻幹】(名) 皮を剥ぎたる麻
あさ-がれひ【朝餉】(名) ■朝の供御。■朝
あさ-き【総本】(名) 長幹なる竹木。「の食事。
あさ-き【麻木】(名) あさがら。
あさ-ぎ【浅黄】(名) うすき黄色。
あさ-ぎり【浅霧】(名) あづいろ。紫苑。「浅原」。
あさ-ぎり【朝霧】(名) 朝たつ霧。——**の**【朝
霧之】(枕) 「おもひまどふ」に対する語。
あさ-くさ-かみ【浅草紙】(名) 最も粗末なる
「両然的なるも。
あさ-くさ-ぞき【浅草式】(名) たつこして
あさ-くさ-にん-ぎょう【浅草人形】(名)
東京浅草より出す木彫人形。「の。
あさ-くさ-のり【浅草海苔】(名) 【植】あま
あさ-くも-り【朝曇】(名) 朝のくもり。
あさ-くら-ざんしょう【朝倉山椒・白椒・爽
椒】(名) 【植】山椒の一種。葉・実共に大形。
あさ-げ【朝餉】(名) あさめし。あさがれひ。
あさ-けぶり【朝煙】(名) あすにたつ煙。「の煙。
あざ-けり【嘲】(名) あざけること。
あざ-ける【嘲】(他) さげしみわらふ。
あさ-ざ【行者草・亀葵】(名) 【植】睡菜に自生
し、蔬菜の食用となる水生草本。
あさ-さ【朝迫】(名) 【朝】朝の緊迫。
あさ-さけ【朝酒】(名) 朝のむ酒。(朝酒)。
あさ-し【浅】(形) ■過ちかし。浅ちかし。■うす
し。■いやし。「ちも。
あさ-ぢえ【浅智恵】(名) あさはかなる
あさ-ぢぼり【朝潮】(名) 朝のまし潮。
あさ-ぢみ【朝清】(名) 朝に大地の潤ふこと。
あさ-ぢも【朝霧】(名) 朝にかく霧。——**の**【朝
霧之】(枕) 「消ず」「消ゆ」に対する語。
あさ-すがた【朝姿】(名) 朝おきたる姿。
あさ-すず【朝涼】(名) 朝のすずしさ。
あさ-せ【浅瀬】(名) 水のあさき瀬。
あさ-だち【朝立】(名) 朝早き出立。
あさ-ぢ【浅茅】(名) 短くして繁らざる草。
あさ-づき【浅葱・葱】(名) 【植】葱編く国産
秋にして食用とする葱科の草本。
あさ-づくよ【朝月夜】(名) 朝方の月夜。
あさって【明後日】(名) あすの次の日。
あさづま-ぶね【朝妻船】(名) ■近江朝妻の
入江にて遊客の乗りこみし舟船。■魚類子・水
平の遊客が舟に乗りまする風。
あさ-つゆ【朝露】(名) 朝にかく露。——**の**
【朝露之】(枕) 「消ず」「消ゆ」に対する語。
あさ-て【浅手】(名) すこしのてきず。
あさ-とり【朝鳥】(名) あさたつる。——**の**
【朝鳥之】(枕) 「かよよ」に対する語。
あざな【字】(名) ■貴人の外に附くる名。■一
対の小屏風の名。■あだな。
あさ-な-あさな【朝朝】(名、副) 朝ごと。
あさ-な-ぎ【朝和】(名) 朝の海上のなぎ。
あさ-なは【麻縄】(名) 麻をなひたる縄。
あざ-なは-る【朝・刺・自】まとはる。
あざ-なふ【朝・刺・他】まつわる。
あさ-な-ゆふな【朝夕】(名、副) あさばん。
あさ-に-け-に【朝日・朝】朝ごとに、日日、
あさ-ぬの【麻布】(名) 麻糸にて織りたる布。
あさ-ね【朝寝】(名) 朝おそくまで寝ること。
あさ-の-は【麻葉】(名) 麻の葉の模様。
あさ-の-み【麻実・麻黄】(名) 麻の実。
あさ-はか【浅】(名) 浅薄のあさきこと。
あざ-ば-る【朝・自】あざなはる。
あさ-はん【朝飯】(名) あさめし。あさげ。
あさ-ひ【朝日】(名) 朝昇る日。(旭)。——**が**
に【朝日照】(名) 【植】葉の一種。甲殻朱紅色。
——**の-みはた**【朝月旗】(名) 日章旗。
あさ-びらき【朝開】(名) 朝の船出。
あさ-ぼらけ【朝朗】(名) 夜のあけ方。
あさ-まし【浅】(形) ■あさはかなり。■みじ
かくはかなし。■かすぼらし。「ちも。
あさ-まだき【朝未明】(名) 夜のまだあけき
あさみ【浅】(名) ■あさき座分。■あさき場所。
あざみ【薊】(名) 【植】葉縁に針を具し小頭花を
開く植物名草本。
あさ-む【嘲】(他) あざける。
あさ-む【驚】(自) あまる。おどろく。
あざむく【欺】(他) いつはりだます。
あさ-めし【朝飯】(名) あさげ。「なるまま。
あざ-やか【鮮】(名、副) うるはしくあきらか
あざやぐ【鮮】(自) あざやかになる。
あざやく【鮮】(他) あざやかにする。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

あさ-やけ[朝焼](名) 日出前に雲のあかるくなること。

あさ-ゆ[朝湯](名) 朝入浴する湯。

あさ-ゆふ[朝夕](名)(副) あさばん。

あさ-よひ[朝宵](名)(副) あさゆふ。

あさ-らか[浅](名)(副) あさはか。

あさ-らか[鮮](名)(副) あざやか。

あざ-やか[鮮](形) あざやかなり。

あざらし[海豹](名)(動) 海に棲む哺乳類の一種。

あさり[蜆](名) 海の砂地に棲む、介殻の扁平なる貝。

あざり[阿闍梨](名)(佛) 仏僧。

あさる[漁](他) 魚貝をとらえ取る。

あさ-る[彷徨](自) さまよひあるく。

あざ-る[酸](自) 酸味なくなる。

あざ-る[戯](自) たはむる。ざる。

あさ-わら-ふ[嘲笑](他) あざけりわらふ。

あさ-を[麻苧](名) 麻の繊維を製したる糸。

あさんかちっそ[亜酸化窒素](名)(化) 無色甘味なる一種の気体。

あし[足](名) 動物の下肢。 ◎あゆみ。 ◎ふもと。 ◎下につづく部分をさすもの。 ◎はたあし。 ◎船の櫓水。 ◎せに。 ◎(接)[足跡]と連続との出合ふ時。——**あと**[足跡](名) 地に印したる足のふみあと。——**あも**[足裏・蹠](名) 足のもとの地をふむ所。——**あ**

と[足元](名) ものく足の前の安否。——**かかり**[足掛](名) ◎もしば。 ◎すべる。——**かけ**[足掛](名) ◎あしをかける所。 ◎年月の経過。——**かし**[足枷](名) 足にはめるかせ。——**かせ**[足枷](名) あしかし。——**がなへ**[足鼎](名) 足のつくある鼎。——**がらみ**[足搦](名) 敵の足に絡足をからみて投げ倒。——**がる**[足軽](名) ◎徒歩にて戦場に出づる兵卒。 ◎上方の下に居せし一階級。——**き-る**[足切](他) 刑によりて足をたち断る。——**くせ**[足癖](名) ◎あしのくせ。 ◎かはず。——**くび**[足首](名) 踝(名)の上の細き所。——**げ**[足蹴](名) 足にて蹴ずること。——**げい**[足慣](名) 足にて身をもがき足をふみならすこと。——**ず**[足擦](名) 踏みかるくにくく歩。——**ぞ**[足袋](名) 踏みかるくにくく歩。——**ぞかく**[足袋掛](名) 足をあらふたらひ。——**つ者**[足袋](名) 足袋のはき。——**どめ**[足留](名) ◎横行を止むること。 ◎染色の型紙を防ぐこと。——**どり**[足取](名) ◎あしびきうち。 ◎ものあひ。 ◎歩の足を取りて倒すこと。 ◎相場の高低。——**なみ**[足並](名) 歩調。——**ならし**[足馴](名) 足のはたらきをならす

し。——**ば**[足場](名) ◎あしのかけどころ。 ◎あしもとのぐあひ。——**ひき-の**[足引之二枕](名)(枕) 「山」「峯」に掛る。——**ひきの**[足引子](名) 足摺してとる拍子。——**ふみ**[足踏](名) 足にて地を踏むこと。——**へん**[足編](名) 碁盤の左方にある足の字。——**まかせ**[足任](名) 足に任せてゆくこと。——**まより**[足寄](名) 足の接触。——**もと**[足下](名) ◎足のもと。(敬下)。 ◎足のはたらき。——**やすめ**[足休](名) 歩をあばしやすむること。——**よわ**[足弱](名) ◎まだの運者ならぬこと。 ◎婦女又は幼稚。——**わけ**[足別](名) 足のようはづしの出来る履物。——**わざ**[足業](名) ◎あしづけ。 ◎足のはたらき。

あし[葦・蘆・芦](名)(植) 水湿地に自生し、茎は「よしず」を作りて立てる。 ◎ものの「葦」に掛る詞。——**がき-の**[葦垣之](枕) 「ふる」「まがれし」等に冠する詞。——**がちる**[葦散](枕) 「葦垣之」に冠みのまじりある所の毛色。——**げ**[葦毛](名) 白——**たの**[葦角](名) 葦の新芽。——**で**[葦手](名) あしでがき。——**で-がき**[葦手書](名) 草体にてもしがきに書く一種の書方。——**のはとよ**[葦素鵝・鴨](名) 葦の茎を巻きて作りたる笛。——**のまろや**[葦丸屋](名) 葦にて

ねりてこさたる粗末屋。——**べ**[葦辺](名) 葦の生ずる水辺。

あし[悪](形) 「悪みにくし」。 ◎好ましからず。

あじ[味](名) 「あぢ」を見よ。

あじ[鯵](名)(動) 「あぢ」を見よ。

あしか[海驢](名)(動) 「る海獣」。

あじか[籃](名) 土を運ぶ竹籠。

あぶ-かん[阿字観](名)(佛) 眞言の観アあぶ-ぎょう[阿字行](名) 「アあぶ-ぎょう[阿字本不生](名)(哲) 「アあぶ-ぎょう[阿字観](名)(佛) 眞言の観アあぶ-ぎょう[阿字本不生](名)(哲) 「アあぶ-ぎょう[阿字本不生](名)(哲) 「アあぶ-ぎょう[阿字本不生](名)(哲) 「

あおや【阿闍梨】(名)【仏】あざり。

あかゆり【阿蘭陀】(名)【植】鹿耳花の異名。

あかんよう【亞鉛】(名)大約百の原名。

あかんようさん【亞鉛酸】(名)【化】硫酸より酸素一原子少なき酸。——**カリウム**【亞鉛酸加綿母】(名)【化】水に溶解しやすき淡黄色の塩。人工色素を製するに用ひらる。——**ソーダ**【亞鉛酸曹達】(名)【化】水に溶解し易き淡黄色の結晶塩。硫酸ナトリウムを鉛と共に熔して製し、印刷糊製造の原料。

あしらふ【遇】(他)あへしらふ。

あしらふ【配】(他)あへしらふ。

あぶくらん【行灯棚】(名)行の字形をなす棚。

あぶくろ【網代】(名)■冬期水中に竹木を組みならべて魚を捕ふる装置。■竹又は竹を編に組みて魚の網代したるもの。■あぶくりまつ。あぶくりまつ。——**かご**【網代籠】(名)あぶくりまつにて張りたる籠。——**ぐるま**【網代車】(名)あぶくりまつにて張りたる車。

あす【明日】(名)今日のつぎの日。——**あさって**【明日明後日】(名)二三日のうち。

あす【港】(名)■港あさくなる。■ごし(港)。

あすい【阿世】(代)たれ、何人。

あずかる【預】(他)あづかる。■あづかる。■あづかる。■

の世界。——や【徒矢】(名) 目標にやらざる矢。——ゆめ【徒夢】(名) はかなき夢。

あた【仇】(名) 「あだの項」。——ふたき【仇敵】(名) かたき。——ろち【仇討】(名) あだ、かたき。——たむら【仇地】(名) 敵の所領。——む【仇】(他) 敵視す。

あた【阿耨】(名) なまめきたる風情。——く【阿耨】(自) なまめきて見ゆ。——めく【阿耨】(自) なまめきて見ゆ。

あたい【私】(代) 「あたし」の転。

あたかも【恰】(副) さながら。ちょうど。

あたご・どけ【愛宕背・地袖】(名) 【建】袖は地に接するように袖色となる赤虫(軍令)。

あたし【私】(代) 「わたし」の転。

あだし【徒】(形) ●ことなり。●はかなし。●いたずらなり。——・びと【徒人】(名) 他人。——・ごころ【徒心】(名) 浮りやすき心。

アダジオ[adagio](名) 音楽にて、緩曲の進行の緩徐なるを示す記號。

アダジオアサイ[adagio assai](名) 音楽にて、緩曲の進行も緩徐なるを示す記號。

アダジオッシモ[adagio ossimo](名) 音楽にて、緩曲の進行、アダジオよりも緩徐なるを示す記號。

あだ・す【遊】(自) ●てきたふ。●ものいう。

あたたか【暖・温】(名) ●あつくなく寒くなき温度。●寒気がなくなる。●冷気緩きさま。

あたたかし【暖・温】(形) あたたかなり。

あたたまり【暖・温】(名) あたたかなる気。

あたたまる【暖・温】(自) あたたかになる。

あたたむ【暖・温】(他) あたたかにす。

あだな【渾名・綽名】(名) 実名外に負はせる名。(よだな。)

あたはら【粗】(名) せっき。

あたひ【値・価】(名) ●ねだん。価値。●らんぎん。●代金。●ねうち。(自)【動】敵対。

あたふ【能】(自) ●かなふ。●適する。

あたふ【與】(他) くれる。やる。

あだ・ふ【戦】(名) (自) たはむる。

あたへ【與】(名) あたふること。さげかもの。

あたま【頭】(名) ●なってん。●かしら。●はじめ。●うへ。●かみ。頭髪。●きす。●一人前。●ぶんかい。——・かず【頭数】(名) ひとかず。人数。——・おちみ【頭蝨】(名) 【動】蝨科に寄生する一種の蝨。——・わり【頭割】(名) 頭数にわりあてること。

あたら【惜】(名) をしさ。——し【惜】(形) をし。——もの【惜物】(名) をしきもの。

あたら・し【新】(形) ●よるからず。●はじめなり。●馬りてあらず。——いきんな【新女】(名) 新しきをみてらん婦人。

あたり【當】(名) ●あたらと。●ほひどはり。●てがあり。——・あ・ふ【当合】(自) もたるあふ。——・きはり【当際】(名) しびれ。——どし【當年】(名) 成功する年。——はづれ【當外】(名) 成功と失敗と。——・まへ【當前】(名) 参酌。●なみ。

あたり【邊】(名) ●はんも。●ほど。——あたり【邊邊】(名) ここかしこ。所所。

あたる【當】(自) ●まはる。●あっかる。●成功す。●しかふ。●のどむ。●かなふ。●ひびく。●ことあみる。●中毒す。

あ・たん【亜炭】(名) 【鑛】炭に似たる鑛物。

あ・ち【彼方】(代) あなた。かなた。——こち【彼方此方】(代) あちらこちら。

アーチ[arch](名) ●弧門。●弧門。

あぢ【鯵】(名) 【動】鯵は科。体面扁にして、背部青色、腹部銀色なる海魚。

あぢ【味】(名) ●味覚物に對する舌の感覚。●おもむき。●たくみ。——・に【味】(副) ●たくみに。うまく。●意味ありげに。

あぢきなし【味無】(形) ●あかたなし。●興味なし。●なさけなし。

あぢさゐ【紫陽花・八仙花】(名) 【植】四季咲色の変化を呈し観賞用又は観用の紫陽花。

アーチスト[artist](名) 美術家。芸術家。

あぢはひ【味】(名) あぢ。

あぢはふ【味】(他) あぢを味わう。

アーチファイシャル[artificial](名) 人工的。

あつ【當】(他) ●うちつく。●あてはむ。●判断す。●さしむ。

あっ・か【悪化】(名) 不良に傾くこと。あしくなること。

あっ・か【悪貨】(名) 質量の低劣なる貨幣。

あっ・かく【悪魔】(名) 計算を誤ること。

あっ・かは【厚皮】(名) ●厚皮なる人。●厚顔。

あっかひ【鍋】(名) あっかふと。

あっかふ【扱】(他) ●とりはからふ。●つかふ。●世話す。●仲裁す。●言語す。

あっかふ【熱】(自) 熱湯して湯になる。

あっかま・し【厚顔】(形) 厚顔にして恥じなきさま。

あっかり【粗】(名) ●あつかると。●あつかりやすき人。●あつかるもの。●あつかりやすきこと。●物を使ふ。●ものにかまと。——きん【預金】(名) よきん。——ぶ・ろ【預置書】(名) あつかりの書を留めたる証書。

あづかる【預】(他) 預を受けて保管す。

あづかる【與】(自) 関係す。●関与す。

あっ・かん【悪】(名) 悪心。

あっ・かん【熱】(名) 熱湯。

あっ・かん【悪】(名) 悪心のあっきさま。

あっ・かん【熱】(名) 【悪感】(名) 不快に感ずるところもち。好ましからざるもの。

あっ・きん【悪】(名) たびをなすに。

あつ・き【厚】(名) 衣服を多く重ねて着ること。

あづき【小豆・赤小豆】(名) ●【植】豆の赤色なる栽培草。●あずきいろ。——いろ

[小豆色](名) 赤に黒みを帯びたる色。

あっく[圧口](名) あくとう。

あっぐ[篤](他) 篤守又は保護を託す。

あつくるし[熱苦](形) 暑しきはどあつし。

あつ-け[呆気](名) ●あっさ。●喜怒哀楽。

あっけ[呆然](名) あどろきてあきれること。

あっけ[挙](名) ●あつくること。●徳川時代に婦人を地にあげて守りしめしこと。——**きん**[預金](名) よきん。

あっけあそろ[厚化粧](名) こってり[したた化粧。

あっけ-なし[呆気無](形) 興醒なりず。

あつ-ころ[厚](名) 表と裏との程度。

あつ-さ[厚](名) 表と裏との程度。

あつ-さ[暑](名) ●あつきほど。●夏の時候。——**あたり**[暑中](名) あつあたり。

あづさ[梓](名)(国)きささげ。——**みこ**[梓巫](名) いたこ。——**ゆみ**[梓弓](名) あづさの木の弓。——**ゆみ**[梓弓](枕) 「張る」「射る」などに続する詞。

あつ-さく[圧搾](名) おしちぢむること。

あつ-さつ[圧殺](名) 圧しつけて殺すこと。

あつし[厚子](名) ●「あつに」と略する紙木の樹皮の繊維にて織りたる布帛。●和紙より成する紙地の強き木綿織物。(厚司)。

あつ-し[熱](形) ●にげしくほとる。●暑ほどあつし。●ゆたけし。

あつ-し[篤](形) ●おつぎ多し。●ゆたけし。●自然なし。●篤。●なさけ深し。篤。

まはかならず。篤。

あつ-し[篤](形) やまの重し。

あつ-ま[圧死](名) おされて死ぬること。

あつ-ま[遏止](名) とどむること。

あつ-ま[圧縮](名) おしちぢむること。

あつ-ま[圧縮](名) とりま。

あつ-す[圧](他) ●抑へつく。●おし崩れ。●「くるる。

あつ-せい[圧制](名) けんぺいづくにおしつけ

あつ-せん[斡旋](名) ●めやちすと。●とりもち。

アッソシエーション・ふとぼ[アッソシエーション式](名) 「フットボール」の一種。各組各十五人づつに分ち、球形の球を用ひ、手の使用を禁じて動作するもの。

あったら[惜](名) 「あたら」の音便。

あ-づち[鉄方](代) あち。

あ-づち[槌](名) 土を鞴の如く築きて、その的をかくるもの。——**もん**[槌門・潮門](名) 上に十字おきたる冠木門。

あづちあたい[安土時代](名) 織田信長の近江国安土城に居りし時代。

あっ-とろ[圧退](名) おしせること。

あっ-ぱく[圧倒](名) おしたふすこと。

あっぱれ[遍天晴](名、副) 感ずべきさま。

あっぱれ[遍天晴](感) 感歎の語。

あつ-び[圧尼](名) 尼僧。無頼。

あつ-よく[圧伏](名) おしつけること。「式。

アップ・ツー・デート[アップ・ツー・デート](名) 最新式。

あづま[東・東国・吾嬬](名) 東国地方。●あづまてし。——**あそび**[東遊](名) 六人にて舞ふ上古の舞曲。——**えびす**[東夷](名) 東国の蛮人。——**ぎく**[東菊](名) 菊の一種。山野に自生す。——**ごと**[東琴](名) 和琴。——**コート**[東外套](名) 婦人用の外套、形は洋服に似て、長き丈に出るもの。——**ず**[東鑑](名) 東国のことばなまり。——**なまり**[東訛](名) 東国のことばなまり。——**ひゃくかん**[東百官](名) 関東武士の用ひし通称。——**ぶり**[東風](名) 東風の風。「小風。

あづま-や[四阿](名) 四方よりおろし屋根の

あつまり[集](名) むれ。なかま。

あつ-まる[集](自) 寄りつどふ。むらがる。

あつ-みつ[遏密](名) 喪服停止。

あつ-む[集](他) より寄りしむ。よす。

あつめ[集](名) あつむること。よせあつめ。

あつ-もの[羹](名) 汁又は肉を入れたる吸物。

あつもりそう[敦盛草](名) 「敦盛草」則に自生し、球茎形の黄色花を開く多年生草本。

あつ-ゆ[篤](自) 病みもり行く。

あつ-ようけ[厚葉](名) 厚き葉子紙。

あつ-よく[圧抑](名) おさへつくること。

あつらふ[誂](他) 註文す。たのむ。

あつら[誂](名) あつらふること。又、註品。

あつ-りょく[圧力](名)(理) 物質の面の単位面積に対する力。「あつよく。

あつ-れき[軋轢](名) ●きしること。●すれ

あて[宛](名) たよりまと。——**に**[宛](副) 目とし、あてやかに。——**はむ**[宛](自) 上ひんめく。——**びと**[貴人](名) 身分ある人。——**やか**[貴](名) ●あてがひ。●なぞし。——

あて[充・宛](名) ●あてがひ。

おひ-ず[充行](名) あてがふもの。——**おふ**[充行](他) ●おりあてもたす。●心まかせにくばる。●あてはむ。●ものはせまる。——**ぶ**[充名・宛名](名) 手紙・書籍を発出する先方の名。——**ぶみ**[充文](名) 発送の分配などを記せる文書。

あて[当](名) ●あつること。●めど。●たのみ。●行つものの下におく点。[貴]。——**いし**[当石](名) 試金石。——**うま**[当馬](名) 競馬の勝利を賭するため社馬を近づくること。——

とすり[当擦](名) あてとする事。——**とする**[当擦](自) 他事にかこつけて、自己の人の事を弱しどまにいふ。——**ごと**[当言](名) あてとする言。——**ど**[当](名) 見込みて事をなす。——**むし**[当虫](他) 当虫にて用ふる親子。——**ずい-りょく**[当力]

[當惑顔](名)自分勝手のようす。——ず[—]ぼろ[惑—](名)[ゴ]たらめ。——つく[當附](他)●あてはむ。●あてこすり。——ど[當所](名)めど。めあて。——なし[當無](名)めあてのないこと。——ぶり[當振](名)でたらめのふるまい。——み[當身](名)敵の急所を突いて倒すこと。

あてい[阿弟](名)[ゴ]の弟。

あてもの(中物)(名)●かくせる物をいひあつらえる。●運さんせに賭ひ[illegible]。

あと[跡・迹](名)●あしあと。[後]。●ゆくへ。●ゆきさき。●ふるさあと。●ふたみ。●ためし。●あとゆ。——かた[跡形](名)後に残る形跡。——きき[跡式](名)あとめ。——たる[跡垂](自)仏菩薩が神となりて我国に現出す。——つぎ[跡継](名)●先代のあとをつぐ人。(後継)。●前任のあとをつぐ人。(後任)。——とり[跡取](名)あとつぎ。ようつぎ。——なしびと[跡無人](名)跡形もなき人。——め[跡目](名)あとより。

あと[後](名)●のち。●うしろ。●もりへ。●以前。●以後。●死後。●子孫。——ぎき[後押](名)ぶんがり。——ぎし[後押](名)後より押してたすくること。——かたづけ[後片附](名)後の始末をつくること。——がま[後釜](名)後妻のかはりとなる人。——きよめ[後産](名)出産後に[illegible]内を清ひ浄むること。——きん[後金](名)はらひの未済なるかね。——くち[後口](名)●残りの部分。●飲食のあと。——げつ[後月](名)先月。——さき[後先](名)ぜんご。——ぜん[後産](名)のちぜん。——ぞめ[後始末](名)あとかたづけ。——のずさり[後退](名)あとへ退くこと。——のまつり[後祭](名)●例祭の翌日。●既に失せること。——のり[後乗](名)後列の乗客。——ばら[後腹](名)●当後の腹痛。●[illegible]後の放屁。——ひきり[後退](名)●あとへ退くこと。●[illegible]軍隊の一種、前面は盾(たて)をたてす。——ぼう[後棒](名)[illegible]などの後方を担ぐもの。——まく[後幕](名)●あとの近世。●あとのあさき。——まはし[illegible](名)後廻。●前の事柄を後となすこと。——もどり[後戻](名)●後へ戻ること。●退歩。——ゆう[阿媒物](名)●あとおつ。●めだま。——ぶつ[阿媒物](名)ぜに。金銭。

あどけなし[低氣無](形)●ものなれし。

アート[art](名)●術。技巧。——タイプ[artype](名)一種の活字。——ペーパー[artpaper](名)写真版印刷用紙の一種。

あと・ふ[聘](他)●をひかん。

あと・ふ[誘](他)●さそふ。

アトモスフィア[atmosphere](名)●雰囲気。

あとも・ふ[率](他)●ひきる。いざなふ。

アトラクチーブ[attractive](名)●魅力。

アトラス[atlas](名)地図。

あとり[花鶏・花子鳥](名)[動]鶏・雉に類似、背青く、形鶏・にはとりに似たる小鳥。

アトリエ[atelier](名)美術製作室。

アドレス[address](名)●名。●所番。

アトロピン[Atropine](名)[化]「まんだらげ」などの植物中に存在する「アルカロイド」。

あな[穴・孔・窓](名)●くぼみたる所。●ひかがみる所。●あやまち。きず。●損失。●間隙。——ぐめ[穴埋](名)●あなを埋むること。●欠点を補ふこと。——かしこ[穴賢](名)●もったいなきこと。●つつしむべきこと。●書簡の末尾に記する敬語。——かんむり[穴冠](名)漢字の頭にある穴の字。——ぐま[穴熊・孫](名)[動]山間に穴居し、形の狸に似たる獣。——ぐら[穴蔵・窖](名)地中に穴を掘りて、品物を貯ふる所。——ど[穴子・海鰻](名)[動]海鰻の別称。穴居し、形のはもに似たる近海魚。——ぼこ[穴蜂](名)[動]蜂の一種、金銭黒色。——ふさぎ[穴塞](名)あなうめ。——もん[穴門](名)神事・石城を穿ちたる門。

あな[感](感)驚歎の語。

あない[案内](名)●あんない。

あない[天老地鼠](名)[動]「ゴ」の一種。

アナウンサー[announcer](名)ラジオ・舞台。

あながち[強](副)無理に。あるて。

アナーキズム[Anarchism](名)無政府主義。

あなとる[穿](他)さぐり求む。

アナクロニズム[Anachronism](名)時代錯誤。

あなた[彼方](代)●かなた。●貴方。●貴殿。

あなどり[侮](名)●あなどること。

あなどる[侮](他)●あなど。いやしむ。

アナナス[Ananas](名)[植]熱帯地方に産し、松毬に似たる果実を結ぶ[illegible]草本。(鳳梨)。

あなにく[生憎](名・副)●あやにく。

あに[兄](名)●同胞にして年長なる男子。●妻の兄・夫の兄・師の夫。——で[兄弟子](名)我より前に我師に就きたる人。——よめ[兄嫁・義](名)兄の妻。

あに[豈](副)何として。どうして。

アニス[Anise](名)[植]繖形科植物の一種。大茴香(たいかう)。——ゆ[—油](名)茴香の種子より搾取せる無色若しくは淡黄色の香油。

アニマリズム[Animalism](名)獣魂主義。

アニミ[Animi](名)[illegible]の一種。

アニミズム[Animism](名)[illegible]。

アニリン[亞尼林](名)[化]無色にして特異の臭気を有する油状の液体。——ぇん[亞尼林塩](名)[化]「アニリン」の塩化物。木綿直接の黒色染料に用ふ。——せんりょう[亞尼林染料](名)コールタール[illegible]。

あね[姉・姐](名)●直接にして年長なる婦人。

●妻の姉夫の弟兄の妻。——ぢ[妻]ぢと[姉婿]。

あねっぽうけ[姉女房](名) 年上の女房。

あねったい[亞熱帯](名) 熱帯と温帯との中間地帯。

アネモネ[anemone](名) 植物。

アネロイド・せいろけい[アネロイド晴雨計](名) 水銀を用ふる事なく、金属板の伸び縮みによりて気圧を測定する。携帯に便利なる一種の晴雨計。

あの[彼](代) かの。——よ[彼世](名) の海多雄三郎三菱[名]。——ぢ[彼方](名) 向こう。

あのくぼだい[阿弥陀提](名) 【俗】有頂天。

あのくぼだい[阿弥陀提](名) 【俗】同上。

アノード[anode](名) 【電】陽極。

あば[栗](名) 【植】栗の小輪品種なる蝦夷栗。——ぢ[栗子](名) 栗の実の如く小さき品種。——ぢけ[栗苔](名) 【植】蘚地に自生する一年生小草。——だち[栗立](自) ●ぞけ立つ。●ぞけ立つ。

あば[網目浮子](名) 網の上縁に浮くもの。

あばく[暴露](他) ●土を掘りて物を出だす。●秘密を世にあらはし出す。「●あばき。

あばし[淡](形) ●うすし。●すくなし。

あばす[合](他) ●一つにす。●あつ。●あはす。●やはらぐ。●くらぶ。●事を謀る。

あはす[鮑](他) 柿の渋を去る。

あばすれ[阿婆擦](名) 婦人の貞淑に慎れ、恥がしこくあつかましき。

あばせ[絵](名) 絵を掛けたる衣服。

あばそ[合](名) ●物と物とをあはすること。●蓋の類。——いと[合絲](名) よりあはせたる絲。——ぶくろ[合嚢](名) 二つの嚢を背嚢にして、うしろ背をあたる。——とうす[合土](名) 石灰と細石・黄土とを混じたるもの。——ど[合砥](名) 砥石の一種。

あはた[畑](名) ひとばね。

あはた[粉屑](名) 穀屑のこと。「の屑屋。

あはたゆき[粟田倉](名) 京都粟田口にあはちぢみ[阿波縮](名) 阿波国よりの産出する木綿織。「共同住宅。

アパートメント[apartment](名) 一棟建の

あはひ[間](名) あひだ。

あはひ[解剖・石決明](名) 【貝】介殻薬にして鎮痛剤・石決明の類。——だき[間に]して殺口那大せる武蔵国の人。——だき[間殺](名) 殺人の妹所に設けたる間じなる法。

あばふ[殺](他) 殺害す。かばふ。

あはひ[淡](他) 淡くす。

あはや[唖嗟](感) 苦しく歎きたる語。

あはゆき[淡雪](名) 淡れすなびたるまま。——や[淡屋](名) ●あはてたる淡。●淡上に

あばら[肋](名) ろくこつ。

あはら[鮑仕](名) ●昆布をすくはり。「み。

あばる[暴](自) ●昆布をけふ。●暴露に現れ。

あはれ[哀](名) ふびん。

あはれ[哀天哀](感) ●ああ。●あっぱ

あばれ[暴](名) あばること。

あはれみ[憐憫](名) あはれひと。

あはれむ[憐憫](他) ふびんに思ふ。

あひ[間](名) あひだ。あはひ。——かも[間鴨](名) 【動】鴨と家鴨とのあひの子。——ぎ[間着](名) ●上着のうへに着る衣服。——なし[間無](形) あは間てなし。——のくさび[間楔](名) ●敵方の刺をつなぎ止むるくさび。●あひだのつなぎ。——のと[間子](名) ●盃洗。●張出見。——の[間](名) 物の間に設ける室・玄関等のある所。——の[間殺](名) つまめのひまに嫁みにする事。——のつなぎ[間繋](名) 刺をつなぐもの。——の[間](名) ●あひだの室。●てすき。●大尺刺。——ふく[間服](名) あひまの衣服。

あひ[合](名) 一つにあふこと。——いん[合印](名) 敵方にかけて敵を欺く印。——ぶち[合討](名) 敵一人を二人にて討つこと。——ぶん[合戦](名) 武器にみはせ嫁がたる鎗。——く者[合釘](名) 刺鎗の尖りたる釘。——ぐすり[合鎗](名) 刺鎗に塗る毒薬。——く[合口](名) 鎗のよくあふ人。——ことば[合詞](名) 合図に用ふる言葉。——おるし[合印](名) 目じるし。——ずけ[合図](名) 事を知らせるかねての手配。——の[合手](名) 敵軍中相の間に於ける鎗者のみの武勇。——はん[合判](名) ●あひとん。●墨書の印。

あひ[相](名) ●なかま。●あひて。●あひごち。●あひる。

あひ[相](接頭) ●共に。「互に」などの意を表はす語。●動詞の上に用ひて強調を加ふる語。——あひ[相合](名) 相合傘。——ちち[相乳](名) 敵方互にうちあふこと。(名)。——ぶい[相言](名) 去婦もろともにとしよろこ。——ぶひ[相生](名) ●共に長寿祝福「相ずるこ。●共に相所に生育するこ。●みかの平。——ぶ者[相傘]。——ぶ夫[相方](名) ふひて。——ぶ夫[相]。——ぶ[相]。——ぶ者[相]。——ぶ[相]。——ぶ[相]。——ぶ